OHARAサポーター倶楽部会報

丸　窓

［第19号］令和元年10月

《掲載情報》
・大原美術館活動あれこれ
・大原美術館応援大使紹介
・ミュージアムショップ情報　など

発行：大原美術館後援会事務局

大原美術館活動あれこれ（1）

音楽と美術のコラボレーション～音声ガイドのご紹介～

作品解説を聞きながら展示室をめぐっていく、という従来の音声ガイドに、素敵な音楽が加わりました。大原美術館に展示されている作品たちをイメージし、選曲、演奏してくださったのは岡山フィルハーモニック管弦楽団の弦楽五重奏団の皆様。選ばれた曲は当館所蔵作品の中でも人気のある19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍した画家たちと同世代による作曲。ドビュッシーやラヴェルなど（お好きな方も多いかと思います）の名曲が4曲、お聴きになればきっとこのセレクションに納得されるはず。岡山フィルハーモニック管弦楽団の音楽監督がこだわりぬいた演奏環境での名演奏と名曲、名画の組み合わせは、日常のもやもやから心を解き放ち、素敵な時間を創出してくれることでしょう。作品に合わせて曲を選んでもよし、曲に合わせて作品を選んでもよし、毎回違った組み合わせを楽しむもよしです！サポーター倶楽部会員の皆様ならではの楽しみ方で、作品の前でしばし目と耳から心のごちそうを味わってみてはいかがでしょう？
曲は以下のとおりです。

・ドビュッシー《小組曲》より「小舟にて」　・ラヴェル《亡き王女のためのパヴァーヌ》
・フォーレ《ペレアスとメリザンド》より「シシリエンヌ」　・ビゼー《真珠採り》より「耳に残るは君の歌声」

録音風景

録音におじゃました森川副館長

大原美術館活動あれこれ（2）

いこう de オオハラ　OHARA MUSEUM Yoga 2019

柳沢学芸課長と作品鑑賞

ヨガの様子

「いこうdeオオハラ」は、ワークショップ（参加体験型集団学習プログラム）を通じて、参加者が美術や美術館に親しみながら、豊かな発想を広げ、表現することを目指す事業です。2019年春分の日を皮切りに、月に1度、大原美術館の展示室でヨガとアートを楽しむ【OHARA MUSEUM Yoga 2019】を開催してまいりました。参加者数は延べ約230名。小学生から80代、老若男女問わず多くの方にご参加いただきました。
美術館スタッフと一緒に作品鑑賞を楽しむ時間では、作品を前に、何が描かれているのか、どのように描かれているのか、作品への印象や想像力を語り対話しました。ヨガプログラムでは、呼吸に意識を向けてからだを動かしていきます。「ヨガ」と聞くと、難しいポーズをとるイメージがあるかと思いますが、完璧なポーズをとることが目的ではありません。ポーズをとることで、自身のこころとからだの中で起こる変化や、外側からの刺激を感じ、自己との対話を楽しみます。
一見、かけ離れた分野に思えますが、「アート」、「ヨガ」、それぞれのツールを使って自己との対話を深め、新しい気づきに出会えることに、親密さを感じます。今回の企画を通して、参加者と美術（美術館）との関わり方、またその先の新しい可能性を、少し広げることが出来たのではないかと思います。今後の「いこうdeオオハラ」企画も是非、ご注目ください。

大原美術館応援大使紹介

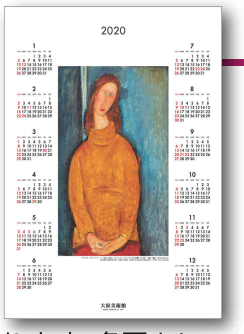
©森 榮喜

作家であり、キュレーターとしても活躍されている原田マハさんにメッセージをいただきました。
「特別な場所」

大原美術館は私にとって特別な美術館である。
小学四年生のとき、当時単身赴任していた父親を訪ねて家族で岡山に行った。アートを見るのも描くのも大好きだった私に、父が「すごい美術館があるぞ」と教えてくれた。そして連れて行かれたのが大原美術館だった。シャバンヌ、セガンティーニ、エル・グレコ……名画の数々に夢中になってギャラリーの奥へ奥へと誘われていった私の目の前に現れたのが、見たこともないような不思議な絵。パブロ・ピカソの「鳥かご」だった。その絵を見たとたん、少女の私は雷に打たれたかのように衝撃を受けた。最初の感想は「なんてヘンな絵なんだろう！」絵を描くことが得意だった私は、生意気にもこんなふうに考えた。「こんなにヘンな絵がこんなにすばらしい美術館に飾られるなら、きっと私の絵もいつか飾ってもらえるかも」。ピカソ相手に生意気にもほどがあるが、「見たこともないようなすごい絵」を、「ヘンな絵」と感じていたわけである。そして（いつかピカソを超える画家になる！）との思いがめきめきと湧き上がってきた。十歳の少女をその気にさせるとは、やはりピカソはただものではない。ピカソとの出会いは私の一生涯の宝物になった。その出会いの場となった大原美術館は、四十年後、拙著「楽園のカンヴァス」の舞台となった。そして出会いの場を演出してくれた父は、一昨年、天国の住人となった。
いとおしい思い出がいっぱい詰まった大原美術館。私の心のふるさと、かけがえのない場所なのである。

ミュージアムショップ情報

新商品のご案内！



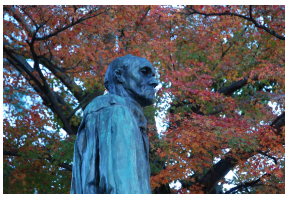
2020年名画カレンダー

1973年に、エル・グレコ《受胎告知》を発売してから、毎年楽しみにお待ちいただいているオリジナルカレンダー。このたび48回目を迎えます。
2020年は、アメデオ・モディリアーニ（1884－1920年）の没後100年にあたります。名画カレンダーとしては、7回目（1979年）以来の《ジャンヌ・エビュテルヌの肖像》、約40年ぶり2度目の登場です。価格は1,100円（税込）です。また、月替わりで作品を楽しめる卓上カレンダーも550円（税込）で販売中。ご自宅に、会社に、贈答に…郵送も可能（郵送料は別途必要）ですので、ミュージアムショップにご用命くださいませ。

キャリーケースポーチ

小さなスーツケースの外見で、丸窓イラストとOHARA MUSEUM OF ARTの文字ポイント入り。
カラーラインナップは全部で11色（赤、ライトピンク、空色、黄色、ワインカラー、黄緑、ガンメタ、シルバー、白、黒、パープル）。見た目はコンパクトでも大容量。内ポケット付なので、旅行の際のバッグインバッグ、車内での小物入れ、通帳と印鑑入れ、簡単救急セット入れなどなど、持ち運び用にも置きケース用にも用途は多彩。現在の、売り切れ最速の人気は赤系。価格は2,200円（税込）です。
品切れ必至の色も多いので、お早めにご来店くださいませ。

表紙の写真



オーギュスト・ロダン
《カレーの市民ージャン・デール》
200×64×48㎝　ブロンズ　1884～86年

1922年に児島虎次郎がロダン美術館で交渉し、鋳造してもらった作品です。本館の入口で、開設当初から多くのお客様をお迎えしてきました。大原美術館の歴史を見てきたまなざしは、きびしく鋭いものでしょうか？それともあたたかく感じられますか？四季によって変化する自然のように、表情もその時々でちがって見えるかもしれませんね。

後援会事務局より

乞うご期待！私が選ぶ“この１点”

現在、OHARAサポーター倶楽部の法人会員は169社（9月29日現在）、美術館の活動に多大なご支援をいただいております。
その企業様に対して、日頃のご愛顧に感謝の意を表すとともに、後援会へ入会されていることをより多くの当該企業の従業員の方に知っていただきたい！そして気軽にご来館いただきたい！という想いからこの企画を始動させました。
題して「私が選ぶこの1点」。各企業1名の方に大原美術館のお気に入りの作品を1点選んでいただき、その方のお顔写真と選んだ作品やエピソードを盛り込んだポスターを制作します。その企業の社内に掲示をお願いし、ポスターを見た従業員の方に大原美術館をもっと身近に感じていただきたいと考えています。現段階では各社内での掲示を想定していますが、個人会員の皆様にも見ていただく機会があるかも…？

大原美術館　〒710-8575　岡山県倉敷市中央1-1-15
TEL（086）422-0005　FAX（086）427-3677　https://www.ohara.or.jp